

昭和四十三年三月招集

第一回市議定例會會議錄(第七号)

館山市議會第一回定例會會議錄(第七号)

昭和四十三年三月招集

一、三月二十二日(金曜日)

一、議事日程(第七号)

議案第四号

昭和四十三年度館山市一般會計予算

議案第五号

昭和四十三年度館山市国民健康保険特別會計予算

議案第六号

昭和四十三年度館山市簡易水道事業特別會計予算

算

議案第七号

昭和四十三年度館山市上畜場特別會計予算

議案第八号

昭和四十三年度館山市休養施設特別會計予算

議案第九号

昭和四十三年度館山市第二水之テリ特別會計

予算

議案第十号

昭和四十三年度館山市南部簡易水道事業

特別會計予算

午前十時 三分 開議

議長(吉田勇治郎君) 本日の出席議員数 二十五名

二小より 第一回市議会定例会第七日の会議を開会いたします。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。
日程第一議案第四号乃至第十号 昭和四十五年一般会計並びに特別会計予算案を一括議題といたします。

議事の方法是昨日決定されたとおり、順序により行ないます。

よって二小より 議案第四号一般会計予算案の歳入部、審議を継続し、質疑を行ないます。

。一五番(石井正君)四五ページ。観光課長にお尋ねいたしますが、キャンプ場の整理費十方上っておりますが、この点を御説明願いたい。

。商工観光課長(山田俊康君)印刷の方からキャンプ場整理費と印刷のしましとに申しわけございません。キャンプ禁止標識作成協力費十方月というところで訂正してお願ひしてありますけれども、内容といったところでは、今年新たにキャンプ場を禁止するというところで大々的にキャンプ禁止の標識を作り、その標識を一昨年各漁業組合等にお願ひいたしまして、角材をもて作る。一般的にはプラカードのような状態のもうを作りまして、キャンプがきて一夜うちにあたり木にしておこうという状況にありまして、一昨年各漁協にお願ひいたしまして、三千万ほどで角

材を塗装して作りまいたくだけが現在各海岸に残すようになります、そのような方向で今回も一本について千円程度は協力費をいただいて海岸線三〇キロに及びます、海洋線に設置したい。

漁協或いは失墾組合や寮とか夏季寮等もございましてそういうところからすてに一部協力するから、ああいうものを作してほしいというふうな要望もありますので、その協力費としていただこうというふうにございます。

二五番（石井正君）どうもおかしいんですよ。協力費でもうというだけで、歳入へ無理にくっつけたような感どがするんです。

実は四十二年度は予算案を見ましても整理費十万円出ておる。きょうは印刷費誤まりなどという答

弁がある。三、質問に対して何て答えたかという
禁止を知らせるために管理人の費用だ。こういうお話
だった。すなおい間違ったら間違ったと予算案の
歳入の面でも十万というのもやはり四十二年度の整理
費十万と同じであって印刷の間違いで訂正して
ございます。こういうことであるけれども、管理人
の手当も昨年は三十万が三十万にふえておる
これは当然賃金の上るうてふふたと思うけれども
完全に当局の誤まりではないんですか。もういつ
んお伺いいたします。

。商工観光課長（山田俊康君）昨日も申し上げました
に市長の方針といたしましては二月十七日の全員
協議会においてもすでにキャンプ場の廃止というこ
は決定されております。

確かにその時点におきましては、それ以前におきましては、キャンプ場を置くということとで計画をいたしまして、たが、その後、計数整理等をして、キャンプ禁止標識作成、或いはキャンプ対策費金というふうなことで、昨年とは違った金額でお願いしたというのが事実であります。

昨年の実績で申し上げますと、キャンプ整理費が十三、四万入っております。実績等年々ふえて、計上する方が当然であります。それが標識作成ということとで十万というふうな金額になったものであります。

・一五番（石井正君）あんなに消そうという気持ちで説明する意思はよくわかりますけれども、五派な予算書に収入面でキャンプ場整理費十万円とのつてある。

こいを見て今うようなくつけたような説明では納得
できないんです。それに支出面でもキャンプ場、便所
を作るとか、まさにキャンプをするが如き説明がのつてお
るわけですよ。こいでは幾らうちからこいだ。間違いで
す。いつでも納得できないんです。間違ひならば
はつきり訂正してもらいたい。

・商工観光課長（山田俊康君）印刷上のミスで現実に
訂正をお願い——まーたような形が正——もうであり
ます。

・九番（島野茂樹郎君）ニセページですが、本年度から
自動車取得税交付金、こいが新設されたわけですが
現在うところ、存目程度、一万円を計上したという
説明ですから、こいはどうというこたはないんですが
大体四十三年度七月一日から適用すると聞いて

おるんですが、この見込みがどう位見込むことが
できるかというところが一つ。

それから国有提供施設等所在市町村助成交付
金、これは六百五十万円の算出の基礎といいま
しょうか。これはおわかりでいたら教えていただきた
いと思います。以上二点お願いいたします。

取政課長（長谷川広治君）自動車取得税の關係で
ございますが、これはまだ細部が明確になら
ありません。一応存目で一万円計上したわけ
でございますが、現在までわかっております状況
にすぎますと。免税額が十万まででございます
て、それ以上の取り引きにつきまして、取り引き額が
百分の三、これを自動車取得税として県が徴収
をいたします。そううちが十分の七に相当する

額をその市町村の道路の長さ面積　そういうものに案分をして交付するということの状況でございすが、大体国の予算から見まして平均値でありますと約百万程度ではないかと考えますが、道路の面積、そういうものがいろいろ違います。若干のうちにわに見ましても八十万程度収入になるうてはないかという推定をいたしておりますが、政令等がきまっております。一応存目として計上いたしました。

それから国有提供施設所在の市町村助成交付金ですが、これは固定資産に對して、それを対象にと参するわけでございます。四十二年度の実績は六百十三万四千円、そのおろす月、大体二、七％の伸びと見まうふうに見まう。六百五十万を計上

一たわけたございます。が大体ニ小け自衛隊
等々固定資産に類する額でございます。

・一九番(島野茂樹郎君)了解をいたします。

・ニ番(小沢恵太郎君)歳入につきまして一点だけお伺
いいたします。

市税と起債の額のところに関係いたしますが、昭和
四十年度、四十一年度決算、四十一年度予算、四十
三年度予算の市税の総額とその増加割合、
割合、同く四十一年、四十一年、四十三年の
市債の総額とその増加割合、同く四十一年、四十
一年、四十三年の市債の元利償還金と
額とその増加割合、ちやうとやミーの質問で申しわ
けないか、お願いいたします。

・財政課長(長谷川広治君)市税の關係でございます。

四十年度におきましては、二億九千五百八十六万六千円
という決算額になっております。四十一年度が三億
二千四百二十万、四十二年度が最終予算で計上
してございしますが、三億七千六十七万九千円、四十三年
度が四億千八百七十八万七千円、この伸び率は四十
年度対四十一年が一〇・八％、四十一年対四十二年が一・二五、
三十四年対四十三、これは予算数字でございま
して決算数字でございせん。一四一・六という伸
び率でございします。

それから市債関係でございしますが、四十年度
の市債が三千百八十万。

四十一年度が四千六百八十万、四十二年度の予定が一
億七千五百二十万、四十三年度が六千八百万、これを
伸び率で申しますと四十年度対四十一年度一四

七・二 四十一対四十二が三三八・一 四十二対四十三が大九
です。これは端数整理がありまして若干差う
かもしれません。

公債費の方、償還元金 四十年度が千四百五十二
万二千円、四十一年度が千六百五十八万六千円、四十
二年度が二千九万二千円、四十三年度が二千二百二十
五万九千円、これを伸び率で申し上げますと、四十年
対四十一年が一一四・二、四十一年対四十二が一三
八・四、四十二対四十三が一五三・三という数字に
なります。

○ニ番（小沢恵太郎君）ただいま御説明の元利償
還金ですが、元金だけです。そうすると利息の方
はどうなっておりますか。

・財政課長（長谷川広治君）利子に対しては、年々

算つております。計算は省いておりますが。

三番(小次恵太郎君) たいよういろいろ数字をここに提示していただきます。たが、この数字を見て過去三年前から本年度予算まで、関係も見よ。たときに市税の伸び率というものが平均一〇%近い伸び率を持てゐるが、それと同時に市債の額も非常に以上の率をもつて膨大してゐる。これに対して財政課長さんは今度、このまま市税が一〇%の自然増が見られる考えですか。またこれに対して市債の償還というものが今後相当の額伸びてくるものかと思ひわれますが、これに對する財源、或いは処置、これについての御意見をお伺ひたい。こゝろ思ひます。

財政課長(長谷川広治君) 市税の将来の見通しでと

ございますが、これは国の経済に合わせまして、その
 小税部門の變更等がございます。その
 過程で地方税法の改正が行われることば、一ぱ
 でございます。大体、私も今までが見込みと
 しては、ある程度税負担が高くなつてきた時点で
 税法の改正がありまして、若干減税をする。

それに経済が成長していきまして、だんだん税負担
 が多くなる。ある時点で税法を改正して、軽減してい
 くというふうな状況でございます。大体、私も
 の見通しでは、年々一〇％程度のものは、ミニ一ぱら
 く伸びていくんではないかと考えております。

四十三年度に對しましては、私の考え方では、四十二年
 度対比にして、地方税に對しては、二五％以上伸びる
 という、全国平均値を取らるやうでございますが、

そのような状況でございます。

それから利償還金と申しますか、いわゆる公債費が
年々増加して参るということは御指摘のとおりでござ
います。が、この捻出財源と申しますか、財源関係
で申しますと大体三・四・五年位は公債費が若
干づつ増額を見ている。

四・五年先になりますと償還金も若干出て
参りますので、現在より総体と合せて公債費
は五千万程度になるのではないかと平均数値を考
えておるわけでございますが、この程度であれば何とか
やりくりをして償還ができるか、ないかとい
うような考え方をいたしておるわけでござい
ます。

決して楽な財政ではございせんが、できるだけ
消費的な経費を省きまして、こういう財源に充て

ていきたいという方が基本的な考え方でございまして、
九番（三幣勇君）ニ大夏六項、木材引き取り七項、
入湯税について存日程度、もうですが、これはどう
いう種類、もうか、課税の基礎について御説明
願いたいと思います。

調査課長（石渡東君）木材引き取り税につきましては
市内において、伐採された木材の取り引きにつきま
して、その石数に応じて単価がございまして、ア
ニホに引き取りされた石数によつて賦課徴収するも
うございまして、普通、年度で大体七万から十
万程度の収入ということに相なっております。

入湯税につきましては、これは温泉法ですが、申しわ
けございませんが、よく存じませんが、それに該当した
浴場に入りにくるお客様から一人一日二十円と記憶

しておりますが、それを徴収する税金でございます。館山市には一軒かございませぬ。昨年までは相当大きな沓槽を持っておったらしいんですが、最近小さな沓槽に改造されたようで、これから上ってくる収入は、まず、望み薄という現況でございます。

九番（三幣勇君）木材引き取り税、石敷、調査は、
という方法でやっているか、それと入場税、方々、
日二十円というお話ですけれども、昨年よりも、
ろが小さくなつて、本年度はふえて、いるようですか。
その点。

調査課長（石渡東君）木材引き取り税、課税主体、
把握につきましても、職員がある時期を見ましても、
市内を巡回し、これによつて把握しておる、が、現状、
でございます。

それから入場税につきまゝでは毎日その市場にい
て私の方で見ているわけに参りません。確たる
帳簿も備え付けないうような現状でございます。
で一応業者と話し合ひの上、この程度のもうは
いただけるものと見込んで計上したものでござい
ます。

九番(三幣勇君)材木の方で市内、調査は市内
のどこにいつ調査するか。この五万五千円という
は何石位のものに対するものであるか。それから
入場税の方はよくわかりませんけれども、話し合
ひで税金を取るわけですか。それと、

調査課長(石渡東君)木材引き取り税につきま
す。では職員がオートバイその他、乗物を利用
して、市内を巡回して道路その他に出て

ある材木をつかまえて調査するものでございますが、それから入場税につきまゝで話し合ひで税金をとつて、これはちつと私、言葉がまずいのであります。が、実際に私もどもの方では、一軒か業者がないうちにお客さまも聞くところによるとあり、こわいという状況でございます。一応話し合ひという言葉を使ひました。が、そういうふうにして課税したいと考えております。

九番(三幣勇君) どうも金額的に課長、お話と合致しないようですが、一応了解いたしまして。

二四番(田中森郎君) 二三点教えていただきたいと思つております。

三二ページ消防費の国庫補助費でございますが、有蓋野水池ニカ所、それから無蓋野水池ニカ所、

という二つになすておりますが、歳出の方では有蓋
貯水池をハカ所お作りになるということでいたが
三カ所分に対する補助金であつたが、カ所という
は補助金がないというにお見受けいたしますが、三
カ所、国庫補助があるという二つに対しては、館山市
は国の方として幾らというきまりがあるのですか。
また、こちらから申請したものでござりますて、決
まっておりますか。それをお伺いしたいと思います。

次は三八ページニューカッスル病補助金、ニューカッスル病
が非常にはりまして支出の面でもニューカ
ッスル病の支出というものが私には見受けられな
いようですが、どう支出に入つておりますか。こ
れに対して補助金が十万ござりますか。市として
は、二つ問題に対してどう位補助をいらすやるか。

二つこととお伺いしたいと思います。

次は三九ページ。県税徴収交付金でございますが、県税を徴収して県の方に納める金額、大体一か年でもう、県税をどう位市でもう徴収して県の方に納めることになるか。その額、それから交付金について、その額に対する何%が交付されてくるか。これを伺いたいと思います。

それから四一ページ。財産売り払い収入の中に土地売り払い収入で千七百三十万。収入になっておりますが、これはどこで土地を売りになるか。それからもう一つ、四二ページの中小企業貸し付けでございますが、中小企業の貸し付けの利用状況、それから、今年からは千五百万かに減額されておりますが、この現在まで利用状況、これを御説明願いたい。以上で

ございます。

消防本部次長（岩田実君）お答えいたします。消防の
貯水池或いは消防車補助につきましても、消防
施設強化促進法という法律がございます。これに
基いて国庫から補助金が出るわけでございます。
が、大体本年より初頭に国が各地方自治体に対
します。三という消防施設に対するワケがきまり
まして本年よりワケは大体全国で十億、多々とい
うふうに聞いております。それでそのワケから
は、いままで、果の方で大体千葉県の貯水池
に対するワケがどの位かということとを果の方に
ききましたところ、貯水池では大体一千個位だ。理
想にいうえ、四十三年度市内に敷設いたしま
す。有蓋三個、無蓋一個に全部補助金をも

らえびいんです。が、ワクがございます。で、果の方と
話し合ひまして、大体、ニ、程度、の補助金が出る
うではないか。ニ、う、こと、で、有蓋、ニカ所、無蓋、ニカ
所の補助金を、歳入として計上した次第でございま
す。

・農林水産課長（伊藤幸太郎君）ニ、エカッスル、の補助金
でございます。が、ニ、いは、市におきましても、果、の補助金
が一羽に、一円で参る、でございます。で、あり
ます。で、同題を、つて、補助したい、という、考え、方、で、
ございます。支出の方は、九三ページ、の負担金、補助、友
に、交付金、の中、の、家畜防疫補助金、という、のが、ござい
ます。ニ、の中、に、牛、その他、を含め、ま、た、う、で、概算
支出、見、込、を、上げて、ある、わけ、で、ござ、います。

・財政課長（長谷川広治君）果税徴収取り扱ひ関係、う

交付金について御説明申し上げます。

本年度六百万の予算を計上してございませうが、
これは三区分に分解しております。取り扱ひ金額
の七〇で交付をされるもの、それから告知書、或いは
督促状、発送枚数によつて交付されるもの、そ
他として一部還付とか、そういうものがあるわけで
ございますが、そういうものを市でやる。それによつて
道県が交付をしてくるという三段階に分かれております。
金額にいたしましては、六千五百万というふうに本年
度予定をしております。これは百分の七が大体
四百六十万程度。それから告知書等が一枚三十五
円の割合で交付される。これは二万四千枚という
ふうに考えております。それから、八十四万、その他還付
関係が四十八・九万位あるわけでございます。

総額六百万を計上したわけでございます。

それから土地の売り払い関係でございますが、場所をとるというところでございますが、現在折衝中でございます。まず、場所の明確な指定は、答弁をさしつかえさせていただきたいと思っております。地区は、館山地区でございます。大体うちの方で評価をいたしまして、額が坪三万のところが二件で二百二十七坪でございます。これはすでに貸し付けをいたしておりました。家屋が建っている。どうせ家屋が建つておるうだから、買収をいたしたいという申し入れをいたしまして交渉しておるものでございます。

それから坪一万二千五百坪のところでは、これも二カ所でございますが、これもすでに民家と申しますか、家屋が建つておるところでございますが、これも買収をいた

いという申し入れがあつて折衝してあります。

こゝが二百七十坪でございまして、以上が一般的のものでございまして残りが二百三十万程度のもうは、ブル、再建資金としてブル、敷地を一部売却却してそれに充てたいというもございまして。

こゝも大体四百坪というふうに見まゝて総額千七百三十万を計上した次第でございまして。

・商工観光課長（山田俊康君）預託融資の制度状況でありますけれども、昨年の九月より条例改正以前

におきまゝては三千八百万から四千万前後を移動しております。件数にいたしまして大体毎月十五件、内外の申し込めがありまして三千八百万の件数百一件であります。現在では九月より条例改正によりまして運転資金百万円、設備資金が

百万円と増額いただきまゝに、現在、四千九百万ほど
とになっております。四千九百六十九万件数の方は、
ふえませんが、百八件ほどであります。なお御参
考までに申し上げますと、国民金融公庫、館山支店
がてきまゝに金融公庫うかといひまゝに、約百件
なり金額は五千八百万ほど出ております。

・二四番(岡中祿郎君)第一点の消防費、第二点のミ
カズル、第三点の土地売却了承いたしまして、

中小企業の方ですが、大体今の利用状況を見ますと
三千八百万から四千万というところでございますが、こ
ちら、二千万預託してあるものでございます。そう
しますとこれを三倍程度貸し付ける。こういうま
うのことでございますね。そうすると六千万はお借りで
きるのだ。こういうことでございますね。最高四千万

としますと結局二千万の預金をする必要がないで
は行いか。これも考えられますわ。

今年千五百万になった。今年からは五倍七千五百万と
いうものが借りられますが、現在まだ四千九百万
の御利用がないということになると一千万と一ても
五倍という五千万。そうすると一千万の預金しても四千万
で一千万のギャップが出てくる。こういうことは何か法律
でもでこれ使うものをやらなければいかぬというき
めがあるんですか。それとも市でも千二千万をろう。今
度は国民金融公庫もできた。二二を利なさせるから
千五百万にしようというふうにあなたの方を考慮してや
つていうふうなんでしょうか。どういうふうなことをいう
ふうなんでしょうか。そこを伺います。

商工観測課長(山田俊康君)確かに御指摘のとおり二

千万預託して参りましたときには三倍までということでありました。なお申し込みのありましたものの中で国民金融公庫で借りた方がいいうではないかというものは公庫ができまして、それらにやるべく斡旋するやうにということでありました。

それから本年度、千五百万の基礎でありますけれども、現在件数は百八件ですけれども、今まで借りておりましたものを毎月従前より貸し出し金額が三百万、二百八十万多いときで四百万程度であります。ところが十月以降金額がふえまして、こゝまき九月までいきますと七千万突破する見込であります。そのため、こゝまきに五倍に上りまして、けれども千五百万をお願いした次第であります。

・二四番(田中祿郎君)よくわかりました。こういうことは市民のためによくおやりになることは結構だと思ひます。が、数字の上から、そういつたふうに感したものであります。同じいわけです。

最後に四五ページの中、小企業預託金融償還というが十万ですから出ていますが、これを御説明願ひたいと思ひます。

・商工観光課長(山田俊康君)預託制度は、現在日本相互銀行に預託してあります。なお、千葉信用保証協会がこれを保証をしております。

期限が到来して徴収不能になったものについては、保証協会が銀行に対して金額、いったん返済する。代弁済する。その場合、果において一割、市において一割を負担するということになっております。

保証協会が八割負担する。なお保証協会は、その後返済しなかった債権者に対して徴収を行ないます。その徴収を行なったものを例を上げますと、この場合ですと、十万円ですから、百万円保証協会が徴収して十万円市に返ってくる。現在までに返済し参りません。ところが既に五万九千円ほどございします。そのように毎年今まで代理返済したもので、返済金がここに返ってくるということがあります。

・三四番(田中祿郎君)預託金融というのを知りませんで、申しわけございせんが、延滞金というものは信用協会ですか。今お話をそこで、たてかえて払う。つまり、その場合市と県で一割ずつ払うのだ。それを信用保証協会の方で督促をいたしまして、本人の方からそれを取った場合、市の方に返ってくる。

のび・ミウということでござりますね。了解いたしました。

・二八番(望月照正君)石渡課長に伺います。先ほどの九番議員の入場税の問題ですが、わからずまいで私たちも説明を聞いて今年の方がふうも小さくなつたのだというのと、いかも千円増額してある。この問題を詳しく説明してもらいたい。

それからもう一点は三大ページ青年館の補助金が百万円組まれているんですが、まことに不勉強で恐縮なんです。四十二年度も青年館三館の建設を見たんですが、本年はたまたま二館一かも寄付金において、三館より、まけいな寄付金が入っている。補助金が百万というのは去年はなくて、今年出て来たというので、去年はもらわなかったかということ

その二点をお伺いいたします。

調査課長（石渡東君）確かに理屈の上からいいますと
大きなところが小さくなつて予算が逆になっているの
はおかしゅうございますが四十二年度の実績におう
まゝ二千二百円の徴収を見ておりますが二千円
というものはいただけるものと見込んだわけでございます。
ます。

財政課長（長谷川広治君）青年館の補助金でござい
ますが、去年は三館のうち一館がどうなるかわから
ないというふうな時点でございまして、その決定
を見てから予算計上しようということであつたので、当初予
算から削除されておりますが、本年度もやはり
おおまそ去年からや交渉で三館はどうかなる
ということであつたので、財源が見通しもつきまゝたゞ計

上りたわけてございます。

ニハ番(望月照正君)第一点の八湯税ですが、二千二百
 円の去年の収入だというのと、先ほども九番議員の
 答弁の中に話し合ひという書言葉を使われている
 実は三年前にこの問題を質問したことがあるん
 ですが、そうときも話し合ひということをおっしゃるん
 であつて発言の取り消し。入湯税は小さな額です
 が、必ずしもいがある。一人一回入れば二十円、一日わ
 かつて十人入つても二百円、三十日でも六千円入つて
 くる。それが一年間で三千円というのはどういう積
 算基礎ですか。もう一度御答弁願ひたい。
 それに去年が二千二百円の実績だから今年はい
 二千円というのとでなくて、これは八湯税ですか
 う。やはり健康保険税と市民税と同じように。

嚴格なる数字を出してもらいたい。あまり小さい数字だからということではないが、ろくにわかるないようになお願いたい。

それから第三点の青年館の問題ですが、私今まで果の補助金が一館について五十万出るやうだ。その補助金がかき消りますと、民生費の方で青年館の建設をするやうだ。去年まで、大体青年館の補助金がかのやういことを我々が見なかったのは、不勉強きわまりないものかと思いますが、これは当初予算に青年館の補助金をのせないので、歳出の方に民生費で青年館三館分建設費残らということば、予算の繰越上、そういうことは、かまわないんですか。それをお聞かせ願いたいと思います。

調査課長（石渡東君）又今うお話し、是能心はどうで

あるかという御質問ですが、私まことに申しわけ
 ございませんが、現実の姿をまだ見ておりません
 ので、状況はわかりません。

それから話し合いてと申しましたことは、先ほども言
 いましたように言葉づきはすみでございまして、一応
 取り消しをお願いしたいと思っております。

。財政課長（長谷川広昭君）青年館の補助金関係で
 ございしますが、当初申し上げましたとおり、一館が
 まだ、未定であるというふうな関係から、一応好ま
 しいあり方ではないかと思ひますが、確定してから
 ということで一応保留をいたしまして、当初予算
 には未計上でございしました。

。二八番（望月照正君）第一点、入湯税ですが、千円・二
 千円という非常に細かい数字です。一ニラトア

話し合ひとか、非常に変な言葉が出ると思うんです。
千円であろうとも、二千円であろうとも、館山市の収
入源、税ですから、実態を調査しないで課税し
かも、歳入の部に入湯税として見込まれておるとい
ふこと。これはどんなことをいまでも、実態を調査し
て、課税でなければならぬと思います。あくまでも
税金ですから、これは二千円が不当かもしれない。ま
た逆にならば、五百円が正しいかもしれません。また
五万円が正しいかもしれません。その実態をもう一
度、やはり真剣に取り組んで、明確なる数字を現わ
していただく。やはり入湯税というところで、人をお
ふろに入れることでも、業を覚えておるのですから、
二千円、一年間に百人でおふろをわかつて、いくら
あるだろうか。二十八日の議会があると思いますが、

せひ、それまでに明確なる数字を示してもらいたい。
それがあるか、やらないかお聞かせ願いたい。

それから第三点、財政課長さん、まことに結構な
答弁で我々いつもそこでわからなくなつてしまつ
わけですが、これからもう三つ、三つというものがあつた
ならば、親切に説明していただいて我々わかり
やすい明細書に書いていただきたいと思います。
それは要望で終ります。第一点の方は確答を
願います。

調査課長（石渡東君）現状をよく調査いたします。
五番（藤田益治君）四一ページ、工項の二節、建物売却
収入についてですけれども、先ほどから二四番議員
の方から一節、千七百三十万の内容についてお尋
ねがありまして回答がありましたが、これに関連す

ると思ひますが、この中に二節の關係が含まれてお
るかどうか。また四ページ、雜入の三目一節、建約金
及び延納利息十一万五千円とありますが、この内容
を見ますと、北条海洋の市有地を売却した分、割
代金の延納利息だとあります。この内容と発生
した元金というのがあるか。発生した時点はいつ頃で
あるか。なおかつ、先ほど申しました四ページ、建物
売却、いわゆる北条の元市営住宅売却と關係
あるかどうか。お尋ねいたします。

。財政課長（長谷川広治君）四ページの建物、売却払い
代金でございますが、これは市営住宅を払い下
げたものであと残りが三軒ございます。その三
軒から十四万四千円でございます。

この払い下げは三十九年度というふうに考えて

あります。それから四四ページ十一万五千円で
ございますが、これはそう続きます。市営
住宅をやはり払い下げたわけでありますが、
そうときに土地を払い下げをいたしたわけでご
います。そう払い下げにつきましては、分割払
いということで、契約をいたしまして関係上同
ト収入でも課目が分れたわけでございます。戸数
は九軒で年々額がきまっております。これは
が十一万五千円が本年度分ということに相なるわ
けでございます。これも払い下げ年度は三十九
年度というふうに記憶しております。

五番(藤田益治君) 了解しました。

二番(関武夫君) 二三点お尋ねいたします。
二五ページの市税の問題ですが、税額が九八%を予

算に計上しておるわけですが、昨年度は九七％を計上しております。それにつきまして四十二年年度の二月末における市民税と固定資産税の現年度の徴収率を教えていただきたいと思います。それと年度末までに何％、徴収見込みが可能なかというところの御説明をお願いいたします。それが一点。

それから二七ページ二款、三款の娯楽施設利用税交付金、自動車取得税交付金、これが本年度はドめておてきた交付金でございます。この内容につきましてもう少々詳しく御説明をお願いいたします。

・収納課長(多田俊一君)御質問の第一点につきまして申し上げます。

今年二月二十九日現在より収納状況でございますが、市税といたしまして八四・二七％、そのうち市民税が七七・一八％、個人、現年度分が七四・七九％、それから繰り越し分が五二・七八％、それから法人につきましては現年度分が九一・三一％、繰り越し分が八七・四六％、これは二月末の現況でございます。

固定資産につきましては、総体的に八四・三四％、それからそのうち現年度分が八六・二四％、繰り越し分が三七・二二％、これが現状でございます。なお、今後徴収見込みといたしましては、市税におきまして九八・二五％、これは現年度分に対しての収入見込みでございます。それから繰り越し分に対しては五二・八％、これは

が、納税額まで徴収見込みでございます。なお
そうとう市民税につきましては、現年度分におきま
して九七・六〇％繰り越一分につきまゝでは、五
％、それから固定資産につきまゝでは現年度
におきまゝして九七・六九％繰り越一分につきま
ゝでは五〇％、二つが一応徴収見込みでございます。
議長（吉田勇治郎君）暫時休憩いたします。

午前十一時

休憩

午前十一時十七分

再開

議長（吉田勇治郎君）休憩前に引き続き会議を
開きます。

二番議員に対する答弁を求めます。

・財政課長（長谷川治彦）ニ款娯楽施設利用税交付金 三款自動車取得税交付金について御説明申し上げます。

娯楽施設利用税、交付金はいわゆるゴルフ場の還元費と申しますか、その関係でございしますが、大体標準額、六分の一を見から交付する。税目は、県が徴収するものでございしますが、その徴収いたしまして六分の一をゴルフ場、所在市町村に交付をするというふうに交付をされるものでございします。

大体、状況を聞きますと、県税収入、予定が千八百万とおさえております。

そう六分の一交付ということでは、三百万を計上したわけでは、ありません。

現在ガルフ場は入場税大百月を取っているそうでございます。

それから自動車取得税の交付金でございしますが、これは現在政令等がはつきりきまつておりません。存目を計上したわけでございますが、先ほど御説明を申し上げましたとおり、取得額、百分の三を累税として徴収を。その徴収をした額の十分の七を道路の延長、道路の面積等に案分をして交付をするという程度まで。か現在文書が参っておりません。一応存目として一百万を計上したわけでございますが、国が予算から見ますと、大体平均値になおりますと、約百万位は収入になるのではないかと考えておりますが、先ほど申し上げましたとおり、全国平均を用いますと

多少の相違がでございます。八十万位は、確実に
収入になるのではないかというふうな程度に、まだ
わかっておりません。以上でございます。

二番(関武夫君)財政課長の説明はよくわかりま
した。了承いたします。

市税の徴収率でございますが、九七、〇〇方が確定し
ような気がいたします。九八を出すからには、そ
れだけの必ず徴収できるといふ見通しの上に立つ
た数字であらうと思ひます。この問題は、二回
打ち切りといひます。

一番(菊井敏博君)先ほど五番議員さんから質問が
出ました。違約金、延納利息についてお聞きした
いと思ひます。延納利息というものはわかるんです。が、
違約金というのは、どうな場合に取るのかということ

それから四十三パーセントに観光費寄付金として五百五十万ありますが歳出の方で見ますと千六万パーの観光費がのっていないが何か需用費と賃金以外は寄付金で全部まかなうておるような印象を受けるんですが、この点、御説明願いたいと思います。

・財政課長（長谷川広治君）第一点、違約金と関係でございますか、これは公法上の収入でございせんか、でいわけゆる私法上の収入ということになるわけでございしますが、節、右前には違約金、及び延納利息というふうな節の右前でございしますが、ここに計上してございますか、十五万月には延納ということではございします。

・商工観光課長（山田俊康君）観光費寄付金について申し上げます。観光費寄付金、充当金は観光費とそれから都市計画費、公園費にあります。

ト、園關係に充ちております。

・二三番（飯田義男君）一点だけ伺いたいと思っておりますが、
二九ページ、二節「住宅使用料」について伺いたいと思
います。六百四十六万三千円となっております。

こゝ中の現年度分が六百十六万三千円、過年度
三十万を計上しておりますが、過年度分が三十
万の収納状況について伺いたいと思っております。
・収納課長（多田俊一君）住宅使用料の過年度分の収納
状況でございますが、おもに滞納してゐるは大賀の
市営住宅でございます。二に對しまして、私の方で
はいろいろと督促に参りまして、徴収いたしております
ます。かゝともかせぎで日中いないとか、それから、
また病人が、あつて生活に困るというふうな状況なん
かもございます。二ににつきましては、私の方では

相当の困難を感じておるといふ状況でございます。
三十万の状況につきましては一応私の方が見込みといた
しましては、二月末現在と三月末現在の状況を見
まして、頭年度分が大体五十六万七千円、それに対
しまして、三、四、五の間に十五万位の収入見込み、従い
まして、繰り越し見込みといたしまして、四十一万七千
円位、それくらい、すでに以前の滞納が三十三万二千円ご
ざいます。これに対しまして、七十六万九千円というものが最
終的、繰り越しになるのではないかということであ
る。これに対しまして、約四〇%位の収入見込みを立て
まして、五十六万というものを計上いたしたものでござい
ます。

・三番(飯田義男君)いろいろと困難な状況はわかりま
すが、市営住宅の設置及び管理に関する条例が

第千九条に「入居者について三ヵ月分前納を
 させる」という規定がございます。なお三ヵ月以上
 滞納したものに對して二ヵ月に對して取り消しを
 する」とういふ様な退去してもらう」とういふ条項もある
 むに私承知しておりますが、この条項が実施さ
 れておるかどうか、なお実施されないとしたらばどう
 うわけで実施されておらないか、そういうことについて
 御答弁をお願いいたします。

・財政課長(長谷川広成君) 市営住宅の關係で、お答
 え申し上げますが、三ヵ月分前納金として前納と
 いうことで私ども収入をいたしてございます。

家賃の滞納關係でござりますが、三ヵ月以上
 滞納した場合には家賃の明け渡しの一応規
 定になっておりますが、現在までこれを実施し

ことはございません。——ない理由としてはあくまでも市民であります。何とか話——合いによつて納めていただくというふうなことを基本的に考えま——それにより低額所得者が入っておりますが、条例或いは法律通りに執行するというのは控えて、るわけでございしますが、かといつて、そういう方を長くというにと、他のものに對する点から好ま——い、あり方ではございません。収納課の方で家賃の納税組合的なものを作ってもらつて徴収をうまくスムーズに進めて、というふうな計画を持っておりますので、そういうことで、しばらく法を執行は見合せていきたいと思います。という考え方でございします。

それから、総体で申上げますと、現在二月末で八三〇位の使用料の納入率だろうと思ひますが、これは、

銀行或いは信用金庫、郵便局とかに納付いた—
ますので、若干人がずれるために三十日に払い込ん
でもうちの方へ、通知、そういうのもうが遅れて
その月の分は滞納になつて計算、まよっているといふ
もう、教子が若干あるうかと思ひますので、大体ハ
五・六%は徴収できているものと思ひます。

三三番(飯田義男君)ただいまの説明である程度了
解いた—ま—だが、やはり一郡の理由ない滞納
者があるとする、それと他に及ぼす影響が非常に
大きいといふことで、この問題については十分なる御検
討を願つて完全なる確當をなさるうにお願ひ—た
いと思ひます。たとえば、この人は非常に気の毒だとい
ふ状態があるならば、それに対する減免措置も
あるで—う—或いは救済措置もあるで—う—

いろいろやり方があると思います。また条創の中に
そういう行為が適合しない条文があるとするならば
それを新しく作ってもいい。市営住宅の意義か
う考えれば、必ずしもいいものは何でも払わして
しまふという事も考えます。時代とそう現
状に即応したところの完全なる処置をしていただ
きたいということをお願い申し上げます。

二、際 財務規則第百八十条にあります。普通財
産で現在貸貸でもその収入があるか。あるとす
ればこの節に入っておりますか。これを承りたいと思
います。

。財政課長(長谷川広治君) 答え申し上げます。四一
一、際 財産収入十一款。その中、際 財務財産貸し付け
収入六十三万二千が件数にして六十二件でございます。

関係課長さんに御説明をわすらうまい。こう存
ずるもありません。

・収納課長（多田俊一君）市民税、個人、繰り越し分、
二百三十九万九千円、件につきまゝお答え申し上げます。
調定額は四百五十五万八千円でございます。二いに対
し、まゝ五〇％、収入見込みということになるわけでござい
ます。が、四十三年度から四十三年度に繰り越す、いわ
ゆる現年度分といつて、二百四十三万一千円。二い
は、収納割合が九七・六〇％と見た場合、繰り越し額で
ございまして、なお、それ以前、滞納分、二い
は、二百
十万七千円。二いに対しまして五〇％、徴収見込みとい
うことで、収入金額、二百七十九万九千円を出したわけであ
ります。なお、この件数は、まだはつきりとはわかつて
おりません。いわゆる現年度分につきまゝ、五

月三十一日がお納閉鎖でございます。それ
 過ぎなければ件数は出てこないということになります。
 なお、まだ法人につきましても現年度分といつて
 まーでは繰越見込みが四十五万九千円。これは
 九七%徴収見込。それから以前、滞納
 分といつて、七万円。これは八三%の見込みとい
 つて、まー調定額が五十二万九千円。九〇%。
 その金額が四十七万六千円。こういうふうに計上
 いたつてあります。この会社、件数でござ
 います。これも今うところはつきりとはわかっており
 ません。なおまた個人的なことにつきまーでは、
 私の方でも発表できません。ご一応御了解を
 得たいと思います。

次、四四ページ、滞納処分費でございます。

これは存目程度にとめて計上してございますが、これは
滞納処分をいたしたときの費用でございします。

私の方では現在差し押えは相当な額でございますが、
最後の公売処分に持っていくということにはきらいま
して、何とか納めさせていきたいと考えております。

今までも、そういう線できておりますが、ここに
存目程度が一千万ということになっております。

御参考までに三月十一日現在の差し押え状況を申上
げますと、件数に十三、六十五、積額二百六十七万千
九百四十四円というものが現在の差し押えの状況
でございます。

これにつきましては私の方では極力公売まで持
つていかないで話し合いで分納させたいという方向
で進んでおります。

○大番(五十嵐昇君) 滞納をなくするためPRの方法は

・収納課長(多田俊一君) 滞納をなくするというところに
つままーでは私たちも先ほど申し上げたように
に要するに現年度う税金を徹底的に取るとい
うことが滞納をなくするということになるうでは
ないかと考えます。 現年度分につままーでは納
税組合組織を強化するという方向を取っております。
現在、鶴山市の町内会部落会におきまーではわ
ずかに納税組合うできていないのは、三町内でござい
ます。 あとは全部、納税組合ができております。
三町内のうち、四十三年度四月一日から結成する
という町内が一つございますので、あとは私の方とい
たーまーでも、有力な町内会長宛に組合結成に

持ていくようお願いしております。なお、また毎納期ごとに広報車で納税宣伝をいたしております。

これは旧館山市六ヶ村全部係が広報車に乗って参りまして納税宣伝を行なっております。なお、それと同時に近く各家庭に配りますので出張徴収の一覧表というようなものや納期の一覧表というようなものもございまして、できるだけ現年度分は納期内に納入してもらおうという方向で進んでおります。

二大番(五十嵐昇君)今、御説明で大体私のお聞きたい点はわかったわけでございますが、処分方法といったものまで公表を実施するということもございまして、競売まで持ていった件数がございまして、これをお伺いいたします。

・収納課長（多田俊一君）最近二三年の間には、公
売まで持つていったケースはございません。三十九
年から四十年位におきまして四五件あったことが
ございます。それ以後は公売はございません。
・一〇番（西村真次君）一つだけお尋ねいたします。
繰り越し金でございます。二千六百五十万計上され
ております。昨年に比較いたしまして一千万円
の減額になつておるわけでございますが、この繰り
越し金も間違ひなく繰り越しでまゐる自信が
おありかどうか。この点お伺ひたいと思いま
す。

・財政課長（長谷川広右君）現在、時点でそれぞれ決算
見込みを作つたわけでございますが、その数字から
いけば二千六百五十万の繰り越しは十分できる

うではないかと考えております。

一、番(西村真次君)確信おあり)というところで大へん結構でございませう。これは先般補正予算の案に依り繰り越し金に付てお尋ねいたしたわけであつたが、四十二年度におきましては出納閉鎖と同時に予定された繰り越し金がすでに二、三百万円不足を生じておるといふことが発見された。新しい予算で発表をいたしまし、わすか二カ月にしてすでに一千万円赤字が出たといふことは、それ以後における予算の執行に非常に支障をきたす。これはまた当然のことであつた。そういうときに限つて年度末における不用額が多いやうな気がいたすわけです。歳入も大事でございませうけれども歳入がなくては困つて予算の執行が可能なわけであつたといふやうな一歳入の

確保に努めらるゝ。同時に予算、忠実な執行と申
します。理由、ないやうな不用額が年度末にたく
さん出ないやうに十分御留意いたして予算、執行に
当り、いただきます。ということをお願いいたしまし
て質問を終わります。

議長（吉田勇治郎君）他にまだ御質疑もあろうかと
存じます。が、二山についてかなさんにおはかりいたします。
議案第四号一般会計予算案、質疑はひとまず
こゝで打ち切り。議案第五号特別会計国民健康保
険予算案、質疑に進めたいと思ひます。
二山に御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よろ
第四号議案、質疑を終わります。

ニより議案第五号の質疑を歳入歳出一括して行な
います。午前の会議はニよにて休憩いたします。
午後は一時会議を開きます。

午前十時四十五分 休憩

午後一時三十五分 再開

議長(吉田勇治郎君) 午後の出席議員数 二十五名
休憩前に引き続き会議を開きます。

議案第五号歳入歳出一括して質疑を行ないます。

一 三番(山田敬宇君) 二点御質問申し上げたいと思ひます。
が、第一点は点数改正によりまして、いわゆる医療費
の支払いがふえるわけですが、ふえ率を大体何%
に見込んでおりますか。それから第二点は直診で

でございますが、一ページ、医薬薬品、材料費が、大体九百万組んであるわけでございます。収入から見まゝで収入が大体二千万ちまうとありますが、これは対する衛生材料費が九百万、これはどういう計算でございませうか、二点をお伺いいたします。

・保健衛生課長（網島憲治君）点数改訂による増加分でございますけれども、これは、その前に薬価の引き下げがございませうが、点数改定だけの増分といたしまして、資料にございますように三でございますが、点数改訂六掛ける割合ということでございますが、二千四百四十五万三千九百三十九円、三という数字を予定いたしております。

薬価の引き下げが、〇・〇三九七、これを差引きしますと、千三百三十五万三千四百十五円、三という推定をいた

しております。

・豊后診療所事務長（野中圭太郎君）申し上げます。
十一節の需用費におきまして九百万円の医薬品及び
衛生材料でございますが、これは四十二年度の実績を
とにいたしまして大体月七十万乃至八十万位りの医薬品
及び衛生材料を購入しておりますので、年間におきま
して大体九百万円計上いたわけてございます。

％で申し上げますと総収入に對しましては、三七・四％。
診療収入に對しましては、四一・二％になつております。

・三番（山田敬宇君）第一点につきまして、いわゆる増を見
込んだのを千三百万ということでございますが、それ
に對しまして歳入の面におきまして大体上つておる
のが、保険税の上り方が非常に多いように感ずるん
です。が、その理由でございしますが、どうお考えになら

いるが、少し多過ぎるように思います。その上、方が割合が診療収入に対して支払いに対しては合っていないように思います。それから、第二点の方ですが、診療収入に対する四一％というのは、少し多いのではないかと、思います。その点、どうお考えになつていますか。もういっぺん。

保健衛生課長（岡島 憲一 君）第一点についてお答えいたします。

私どもの方が保険税、算定の仕方がいわゆる総支出から保険税を除きます。総収入を差し引きまして、残りを保険税で賦課する。こういう賦課の方、法を、取っております。従いまして、医療費のみ、改訂で、それが上るため、ものも含まれます。けれども、その他に、いわゆる年々、受診率、増、内容

的には診療内容の向上と申しますか。医療の向上と申しますか。そういうものも含まれておりますし。今回医療費の増加の中、要因といたしまして一応前年度繰り入金等五百八十万円を措置していただいたわけでございますが、そういうも入っております。いわゆる超過負担といえますか。事務費の算定をいたします。基準額と実際事務費を支出する差。これも医療費といたし値上げ分の中に該当するわけでございます。医療費の点数改訂による部分の値上げではございませんで、そういうものが含まれております。医療費にはわかる。こういうことになっております。診療報酬の改訂分につきましては、医療費はわかりを計算いたしますと、大体二百四十万程度ではございませんか。というふうに私の方では算定をいたす。

ております。

・豊房診療所事務長(野中圭太郎君)診療所で申し上げます。御指摘のとおり四・二％では少い高うございますが、全国平均で申し上げますと三六％と聞いておりますが、二に一つまでいろいろ所長とも相談したのですが、現段階におきましては、直に施設というたてまえからいまして、大体一流メーカー品を使用しておりますので、この程度の額は仕事がないだろうということでございますが、御了承いただきたいと思います。

・三番(山田敬宇君)保険税の頭打ちは幾らだったのですか。

・保健衛生課長(岡島憲治君)現行法律の上でも五万円でございします。

・一三番(山田敬孝君)そうしますと増うかは結局どういふ方式で上っていくんですか。

・保健衛生課長(岡島憲治君)現在、私どもの方で税率として用いておりますのは、所得・資産・均等割・平等割という二とでございしますが、利益割で百分五十八、応能割で百分四十二、三という率で四十二年度までは賦課をしております。今年度も大體それと同様の方向でいきたいと思っております。

・一三番(山田敬孝君)いずれにましても先ほどのお話のとおり、特に全体的な推移で上ってきたのは違いないんですが、おもしろなるものは、医療でなければならぬ。医療内容にこそ金額は上るうがたてまえだと聞かう今までも人件費だとか、いろいろの面で上ってくることはありますが、医療費が主体で上ってくるのが本

来う姿だと思ひます。それに対して、今の上昇率
 を見た場合に私の考え方では歳入の保険税より上り
 方が少い。いわゆる保険はご存じのやうに大
 きな社会組織のところは社会保険になつておるわけで
 ありまして、小さい企業とか自由業その他の方々、
 比較的所得が少ない方々が割合多いということであ
 りますので、あまり上つていくことは、こゝまゝい姿では
 ないと思ひ考へます。それに対して、今の課税
 方式、これはある程度、やむを得ないと思ひますが、
 これに対して、もう少く、方法はなかつたか、一般
 財源をもう少し繰り入れて、保険税の軽減を
 はかるといふことが私は必要ではないかと思ひます。一
 昨年度から昨年度に上つた率を教へていただ
 きたいと思ひます。

保健衛生課長(綱島憲治君)四十一年と四十二年対比でござ
いますが一・二・一％これは四十二年度の決算額と四十
二年度の予算編で実際に賦課した対比でござい
ます。

一三番(山田教宇君)そうしますと本年度は何％ですか。
私二・三％と思います。

保健衛生課長(綱島憲治君)二・三・三八％

一三番(山田教宇君)昨年が一・二％に對し、まして今年が一
・三％という一・二とであります。私、考え方が間違つて
いるかわかりませんが、全体からはそうなるんでは
か、おもな支払い額二億幾らかかっております。

その増に對するものが主体でなければならぬという
私の観点から考えまして、二・三％増というものが医療
の増よりも極端に上回っておりますのではないかと

う、考え方から質問したわけでございます。
まあ、その点私としてはもうクー保険税に対しては
考えになつてもうた方がいいのではないかと、うう気持で
いるわけでございます。

それからもう一つ、一大ページ雜入の中、第三者納
付金とありますが、これについて、

・保健衛生課長（網島憲治君）「第三者納付金と申し
ますのは、現在私どもで扱っている主たるものは、交通
事故関係のものでございます。交通事故の場合
私どもの保険で給付はいたしますけれども、それが
第三者にまつて支弁されるものもあるといたしますと
その分については、第三者から納付をしていただく。
これが第三者納付金でございます。」

・一三番（山田教子君）「第三者の納付金には、大体点数

によつて徴収されてゐるんですか。それとも違つたものでございませうか。

保健衛生課長(岡島憲治君) 大体私どもの方で扱ふものは点数で請求があるわけでございませうから、私の方では交通事故については連合会の方へ回わされております。それ故私どもの方に通知がありまして調査を。そのときに保険給付で行なわれてゐます。いばもちろん保険点数で請求をしております。私の方で関係ない部分。つまり保険を使わなかつた部分については一点、単価が若干高くなつておるやうでございませう。

一三番(山田教字君) 高くなつてどう位でございませうか。それから労災の場合、一点、単価は幾らで。

保健衛生課長(岡島憲治君) 大体一点十五月程度で

おやりになつておるやうに聞いております。

労災の關係につきまゝではおそろく同トでは、ないかと思わしますけれども、ちと記憶いたしてありません。

・一三番(山田教字君)労災は十月五円、ですから。

たとえば診療収入が第三者の納付金で考えるんですが、いわゆる自由診療に対する治療、内容がはつきりした規定と申しますか、そういうものが出てきて、おそろふらふんですか、それとも要するに社会保険、国民保険の点数に従つたものに準じておろるか。

・保健衛生課長(岡島憲治君)ここに計上されます。第三者納付金について、国民健康保険の点数によつて請求するものとございませう。自由診療については、私どもの方では關係がございません。

私どもも二に上っておりますのは、保険で扱ったものの
のという二になるわけです。

一三番（山田教字君）自由診療というものはできないん
ですか。

保健衛生課長（網島憲治君）これは申し上げました
ように、私どもの方に請求が参りませんで、その点に
つては、あると思いますけれども、その事例等について
は、承知をいたしております。

二八番（望月照正君）まず、四十三年度が二三%の値上
げ、これを何とか下げられないだろうか。最終的には、
そういう要望なんです。その前に、四、五、点、お伺い
したいと思っております。

まず、第一に別表の参考資料の調整交付金、二
算表方法をもう一ぺん御説明願いたいんですが、

保健衛生課長(岡島憲治君) 三三に書いてございます。うに調整対象需用額 二は療養に要する給付費でございます。それから調整対象収入額は保険税 被保険者の収入額等でございます。それを差し引きましたものが調整の基準額になるわけでございます。いわゆる収入と支出のアンバランスをうめるために調整交付金でございます。その差額に付て交付される補助金でございます。

二八番(望月照正君) 去年ですか。我々同僚の、高橋議員もこの問題について、だいぶ一つ二つ言ったように記憶しておりますが、調整交付金の算出方法というものは、三三いうふうないたずらに、やみくもに、いって、いわゆる健康保険法に定められてある、

んです。それは当然、該市町村の療養費、支給。また
は給付等に要する費用が見込額、何分の一と
いうふうに書いてあると思うんですが、それと性質が
違ふんですか。

保健衛生課長（岡島憲治君）おおせうとまりでござい
ます。――カー、交付の算式になると、二のようない
算式をいたしまして、交付されることになるわけであ
ります。

ニ八番（望月照正君）そうしますと、八百三十八万というは、
要する費用の総額、百分五ですか。それか、大体
これに該当するんですが、二のようない要する費用、百
分五という解釈でよろしいですか。

保健衛生課長（岡島憲治君）調整交付金は、療養費の給付
に要する額、百分五というは、国の手算、算定、

基礎でございます。従いまして、その予算算定が基礎に従いましてくるわけでございますけれども、これが打ち切りなんです。予算の範囲内で交付をする。こういうふうなことになるのであります。おそらく百分五はときにはくることもありまゝでしょう。ときによつては、ないときもあるというふうな思われます。従いまして、これは打ち切り補助でございます。いまする、国が予算計上した額で調整交付金、全国的な算定が終りまして、その範囲内で交付をさしますもので、この申請に従いまして、それが総額では百分という数字を使いますけれども、実績等がそれより上昇しても、その額は増額されません。当初予算計上した額の中で交付されるものでございます。従いまして、この補助金だけは

受け取り見なければ最終的には幾らになったということばわからない補助金でございます。

ニ八番(望月昭正君)ニ、打ち切り補助金というものは、
山市の国民健康保険の組合が要する費用、それを申
請して、それに対する百分五というのが国からくる。
それが打ち切りということではないんですか、そうします
と国が何でこれを聞くかということ。別表にあるよう
な非常にややこしいことも、健康保険法にう
たづねあつて、仮りに打ち切りであろうとも何であろう
とも、当該市町村の要する費用の百分五がくる
のだというふうに解釈ができませんか。

保健衛生課長(棚島憲太郎君)　そのことにつきましては、確
かに国の予算は確かにそのように計上いたします。
当初国がそういうふうに療養給付費は本年は

幾らである。そう百分り四十が療養給付費の負担金であり、百分り五が調整交付金である。こういう数字で予算は組むわけでございます。

私ともう方でたとえば最初に組みまうた療養給付費は、一千万ばかりにあるとするならば、その百分り五、相当額が調整交付金である。国がそういうふうに組めます。それが千五百万円になつても、百分り五という数字は千五百万掛ける百分り五にはならない。従いまして実質的には、そうとき療養給付費の関係によりますけれども、それが当初、繰上りた金に納めたいときは、百分り五以上になるであろう。それを越えれば、百分り五にはならない。

現在うところでは当初予算よりほとんどオーバー

してあります。百分の五という数字はそのまま市
の方には二ない。まゝてや交付率等に当初算定
いたします。当初予算には私も県の指導とい
います。予算協議というものがござります。如
そよときの本年度の補助金が見込み額はこうい
うふうに計算すべきであるというふうなことで一
応協議という形でしてあります。

○二八番（望月照正君）課長さん、これは長いやりとりして
も、もうがたいと思います。昭和四十三年度の要
する費用額の百分の五がたまたま、調整交付金
と同じ額になす。それは課長の方でそういう
ふうな調整、たと思います。その点を私さつき
から聞いておるんですが、要する費用の百分の五
に該当するものが調整交付金としてきてるんで

すま。三三にのつてゐるんですま。当初予算の要する費用の百分の五が、三三に該当してゐますから。それはそのとおりですかというのを聞いてゐる。保健衛生課長（綱島富太郎君）それは私の方でそういうことで予算を組んでおりません。たまにま。その数字が一致したということになると思います。

・二八番（望月照正君）それはおかしい。三三に法律にのつてゐるんですが、それをどうして適用できないんです。要する費用の百分の五、これは国民健康保険にその財政を調整するために税金の定めるところにより、市町村に対して調整交付金を交付する。この中に要する費用の見込額が百分の五に相当する額を交付金として出すのだというふうなうたつてゐる。どうしてこれを適用できない

いんですか。

保健衛生課長(綱島憲治君) 確かに法律には、そういうふうになつております。ですから、再三申し上げましたように、そのままで、そういうふうに解釈されてゐることも、一つの方法で私はあらうと思ひます。

再三、現実の問題として申し上げていきますように、国がそういうことで予算を計上し、実質的にこのやうなことで交付されるという結果と申しますか、そういうことで私もいたつておりますので、今までも、そういうことを考え方で予算計上をしてゐるわけでございます。

二八番(柳五月照正君) 課長さん、私が一番最初に何とか二三%、保険税の値上げ、それを下げられないものでらうか、そういうことを考えますと、課長、いうやうな

こゝ積算基礎による交付金額とこゝ健康保険
法による法律で定められているこゝ額でやった方が
便りに交付金が多くないば法律で定められた方が
計算でする方が交付金かゝるならば、その方が
いいんではないですか。

・保健衛生課長(岡島喜右衛門) せいは、そのように計
算をされてくは私どもの方でも、それでいいと思ひます
が、實際問題として予算額よりは、確かに調整
交付金は、今まででもきております。

予算計上額を割ったということは、今までなかつ
たように私は記憶いたしておりますけれども、当初
予算より歳入につきまゝでは、法律では療養の
給付に關する当該年度の初日、計算で当
該年度、療養給付に要する費用、百分

セキ五を保険税で取れということが保険税を取る
基礎にたっておりませんが、それではございますと、か
なりもつと大きな願ひになります。

従いまして私どもの方では保険税を除きます
総支出から総収入を引いて残りというものを保
険税として賦課する。二が一番安い保険税の
掛り方でございます。すけれども、そういう方式でや
つております。当初における見込みというものは、
三という算定方法で歳入を見ろという県の指導
方針と申します。そういう算定方法に私ども
は、まゝして賦課をしてゐるものが現状でございま
す。

。二八番（望月照正君）今課長が健康保険法の中
のとおりのいふ、いふけれども、うんですが、二は

財政課長　いわゆる法律の解釈なんですが、こゝ
とおりくれば、いっけいともでなくて、あくまでも法律
にあることを請求してもいいわけではないんですか。
これがあてにならないものですか。

財政課長（長谷川広治君）族文「解釈に多少私ともと考え方違ふ面があるのではないかと思ひます。加、百分五と申しますのは、政令によつて定めらるゝ基準によつて計算しなというやうな前提があるわけではございません。ただ、ここでは算定表では百分九十を見ておりますが、あと一〇％がくるか、こないかというやうなことは問題にならうと思ひますが、こういう計算方法によつておまゐる二表です。九百三十二万というものが、百分五に相当する金額である。そういうふうに条文の方は

解釈してあります。純粹口と申しますか。現実の費用の百分五に財政調整交付金で代わっていることとでござります。

ニ番(望月照正君)主査課長、私がいつておることは先ほどから何回もいう通り要する費用という問題が特別会計、予算書を見ましても徴収費がうてないわけですね。徴収費は収納課の方でやっていることと認めますが、やはり徴収費、人件費、これはどこから出ているのか。それによっても人件費が私が先ほどからいつておる要する費用の百分五というならば、仮にわずかでもその分は交付金、対象になりはしないか。このように任意団からさうさから質問しているわけですね。

保健衛生課長(網島憲治君)徴収の費用は私もう方

事務費の中より現在三人分人件費は支弁しております。市民課で四名、これは去年の数字でございます。調査課で二名、三ついうふうには支弁はしてありません。

二八番(望月照正君) もう一つと、この中が含まれているというのとですか。間違ひありませんか。

保健衛生課長(綱島憲治君) 対象となる費用は、療養費や給付に要する費用でございます。事務費は含まれておりません。事務費は事務費として算定されて、事務費としてくるわけでございます。

三八番(望月照正君) そう細かい数字わかりますか。

保健衛生課長(綱島憲治君) 事務費負担金については昭和四十三年度におうまうとは、国が被保険者一人当り

三百四十円というが補助金も単価でございます。

事務費も単価でございます。そういうことで国は取るわけでございます。補助金として国は計算するわけでございます。それでいざ、實際の補助金交付につきましては、その算定方法が分かっておりまして、いわゆる超過負担、二ふに關係するわけでございまして、けれども、その算定基準に従いまして交付をさしてくるわけでございます。

現実の問題といたしまして、本年、三百四十円ということでございますけれども、私どもの方で事務費の負担金として見込みますのは、別表二の二、こういうことで予算を組んだわけでございます。事務費は大体が年度内にほとんど一〇〇%収入をさします。ま、何万か本當の端数が翌年度負担金でござ

いますので、精算でございまして、本年度の
予算内で間に合わなければ翌年度精算交付
されます。

。二八番(望月照正君) それでは次に参ります。

今まで健康保険の税率が上がったのは昨年一二%
今回二三% 二はま二と一上り方が激しいんですが、
二はいつまいて昨年までは一般会計の繰り入れ等
によりまして相当アップを抑えてきたという事実が
あるんですが、そういうときに同僚議員の質問というも
は、あくまでも社会保険に入っておる人たちを考えるな
らば、税の二重負担ではないか。そういうことで再三
再四今まで議会で議論されてきたようなわけです
が、今回一般会計の方の繰り入れを存目程度に
一か上げないということは一二%の値上げが二三%に

たつても一般会計の繰り入れを全然、もちろん予定
がなければ予算書にはのっていないと思ひますが、そこ
らう次第の経過をお聞かせ願ひたいと思ひます。
保健衛生課長(岡島憲治君)一般会計の繰り入れで
ございますけれども、二二・二三年度だと思ひますが、一般
会計においては予算計上なし、特別会計において
のみ歳入の予算計上をする。こういう形態を取
つておるわけでありますが、これは確かに一見奇
異な感があるわけでありますが、違法ではないけれど
も、適法とはいえないというふうな見解もあるかと思
ひます。従ひまして私ども今回一般会計から繰
り入れをなしにするという、もちろん最終的には
もし赤字が出れば市長の責任において解決すべし
問題であらうかと思ひますけれども、現在抜本改正

なるものが、いわゆる鈴木委員会名において検討
されております。そう中で標準保険税の設定とい
うことがございます。その内容については詳しく私ども
の方には通知がございませんけれども、医療費階
層別保険税ということになりますと、医療費の階
層に従って保険税は基準を定めて、二、三くらい、
取れということになるのではないだろうか。こういう予想
も立てております。そうして今まで私どもが一般
会計の繰り入れ金と予算計上しながら、現実の
問題として繰り入れ金がなくて、過ごして来たとい
うことが二、三年の事実については、私ども赤字がな
くても繰り入れがなくて結果的にはいいわけであ
ると思いますが、何か予算の計上方法に何
となくすっきりしない感じがみなさんの中にもあると

思われます。實際問題として医療費の算定に
いたしまして、私どもこのような計算方法をして
おりますけれども、實際のことを申し上げまして医療費
の算定は悪く言えはあてにならないといえますか。計
算の方法としては現在私ども考えておりますのに
この方法以外にないだろう。それが現実の問題とい
たしまして、そのようなくるいがあるということ、それを
例年、こういうふうになるから、ということ、予算を
組むにはやはり勘とということになるかと思ひます。
そういうことが實際問題として予算の積算資料
というものは固から承知します。予算協議という形
で、このようにすべきだという指導もあるわけで、で
ございまして、決算と予算の食い違いが必ずあると
いうことは何と申しますか、私どもに言わせれば、

むずかしいというところでございます。そういうことでそ
 れらを相談し合つたわけでございますけれども、いつ
 かは特別会計でございます。やはり特別会計
 の原則に従つて処理する方が一番いいわけござい
 ます。これは国も通達を出しております。繰
 リ入金という形が、実際問題として、保険税軽減の
 ために一般会計の繰り入れということでは、自治省から
 慎重なようにという通達が出ております。その反面
 保健施設やいわゆる一般公衆衛生等の関連におい
 て保健施設活動について、費用は繰り入れてもいい
 んじゃないかというところで、厚生省からは参っております。
 一二月前、新聞にもそういうことがのぞいております。
 けれども、そういうわけで、それらの通達等も兼ね合
 わせまして、今回、一般会計から繰り入れ金という

ものを削除したということになったわけでございます。

ニ番(望月照正君)課長さん、主税課長さん、やっておりますこととおかーいとは思っております。

ニ三年前から非常に税率、増減ということと一般会計からの繰り入れならば、まことに結構なことだと、いうことでござりますが、ただいま課長、いうふうに自治省から、通達で、慎み、ということは、いつきたんですか。

大体、熊山市の課長さんが、かわるたびに、三、四、いうような一般会計の繰り入れは、違法ではないけれども、あまり、よろしくない、という解釈。今までは、萩生田議員が質問されておったんですが、その都度、主税課の課長さんは、これでいい、ということと、ござっております。それから、もう一つ、一般会計の繰り入れすることによ

つて、それを使わずに済んだ。勘で数字を出さなければならぬということは、逆にいうならば、一般会計から繰り入れをしないのであるということは、それも勘ではなからうか。前任者の課長さんのことを考えるならば、我々はそういうふうに解釈せざるを得ないのだということです。一般会計から繰り入れをすることによつて税率が下るならば非常に熊山市民のために幸いではないかというふうに考えるんですが、質問に答えていただきたいと思います。

。保健衛生課長（綱島密彦治君）自治省の通達は以前からあったわけでございます。その時点まで記憶してありませんけれども、ずっと前から繰り入れ金について考え方というものはございます。

それで前課長の言葉と違うというふうなことでござい

ますけれども、私前課長さんがどういうふうな御答弁
なされたか、私記憶してありません。まあ、實際問題、
といった――まして私、申し上げたことについては、間違ってい
ないと思っておりますけれども、望月さん、おっしゃる
のは、こういうことでございますか。予算として繰り入れ
金を組んで結果としてそれが使われなくて、決算が
できる。それならいいではないか。こういうことでござい
ますか。

二八番(望月照正君) 今課長さん、話の要旨がわからなく
なつて、こういうことをいふのはいかぬ。自治省の通達
はいつきたか。今までの課長は、通達がきたとか、三
う、このことは、誤りか、なさいという、これは一切いってない。
課長がかわつて、それを言われて我々納得できる
ものが、一般会計の繰り入れがあつたときに、議員が

ら質問されればそれは違法ではないのだ。聖々と胸を張って答えておる。今度は逆に一般会計から第1入金がないうちという見れば、繰り入金がなければ正しいのだ。課長えかわるごとに保険税と税率がかわったり、事務処理がかわったり。それではまことに困るのではないかという事です。

保健衛生課長(岡島憲治君) 通達や関係につきまゝでは私は私(はつきり)記憶しております。ません。で、うちほど申し上げたいと思います。

私と前課長との説明 答弁、それが食ひ違つて、課長がかわるたびに、そういうことでは、いけないという事です。前々課長さんのおおしやうなことを記憶いたしておりますが、内容的には何といたしますか。全然違つた方向といえますか。そういうことによつて結果が

金惠達うという二にはならないように思っております
けれども、私がお答え申し上げるまでも、前、課長
さんと相違するということに内容がよくわかりません
で、何とも申し上げられませんけれども、そういうことで
ございますれば、一応前、課長さんのおお答えと私
答えておりますものと、判定をはつきりさせて
お答えしたいと思っております。

・二八番(望月照正君)課長さん、そういう意味ではないん
です。相違するのではなくて、結果がたいぶ保険
税率、値上げが違ってきたから、質問しているわけであ
り、明りか、一ニ%と二ニ%という大幅な違いが、おたという
こと、それは、前、課長さんは一般会計の繰り入れを
正し、という表現をしたか、どうか知りませんが、結果的
に正し、ということ、通して税率を下げた。今回は、

一般会計の繰り入れを全然せずして、税率が二三%上りたという事です。これを一般会計から繰り入れを課長がどうしように交渉したかという事。それからもう一つは一般会計の繰り入れをすることによつて、こういう当初予算を組むことは非常に勘に頼ることです。まずいとおっしゃった。そうではなくて、私、こういうのは税率をここまですげないで済むような当初予算を何とか作れなかったかということですよ。

たとえば、前の課長さんが勘に頼つて一般会計の繰り入れをして、それをやらないで済んだ。それにまつて二、三%の税率アップでおさまった。今回の方は勘にはもうなかつたかもしれませんけれども、一般会計の繰り入れをしないので二、三%という倍近い数字の保険税が上ったという事。

前課長さんは一般会計の繰り入れを正しいというふうに
あります。今回は好ましくないとあります。

それによって出る答えが片や二％である。片や二三
％である。そこを何とかできないだろうかということで
す。

・保健衛生課長(綱島憲治君)私が先ほど勘に頼ったと
いうことを申し上げたのは、意味が通うんですが、これは
前課長さんもかまうた計算をして、そうして一般会計
の繰り入れ金が一億位という数字になって、それで
保険料率を下げるわけです。結果的には、こういう
ふうな算定した医療費並に補助金、が内容的
にはかわりかたという事です。それによって一般会
計の繰り入れもなくて済んだという事でございま
す。これは今までの積算方法と全然かわってお

リません。その点は、私も池田課長も内容的
 には同じでございます。ですから先ほど申し上げ
 ましたように、結果的にこういう予算を計上し、二
 数字に従って計算をしまして、けれども結果的に
 はかなり違いがあったということでございます。
 それは勘というところは結果からおいて、そういうな
 ことになったんだというところでございます。前課
 長が勘によつてゐたということではございません。
 それから、実際問題として補助金の算定方法にいた
 しまして、療養給付費の算定にいたしまして
 も、四十二年度の算定方法と全然かわつておりま
 ん。全部同じでございます。従いまして、私がかつた
 んで、税率が上がった。こういうものでもござい
 ませんで、いうならば去年と今年の違いは一般会計の繰り入れ

金う計上がないこととそれから先ほど申し上げましたように医療費や受診率の増、並びに点数改定とそれから事務費の増、保健施設費の増、そういうものからか合いますと保険税の増になる。こういうことでございますので、最終的には保険税の引き下げ、操作と申しますか、これは現在、時点で考えますの中にはまだ補助金、それから歳出の二三月分、医療費が確定を見ておりません。

従いまして本年度の決算というものは私も自分なりが見方はしておりますけれども、そう大して期待はできません。むしろはないというふうに考えます。

それからもう一つ、市民税、所得並びに固定資産税の結果はまだ判明いたしておりません。その本算定は七月でございます。その時分になりますれば補助金

の交付決定もありません。負担金でございすよば、
本年度九五 くるなり、九三くるなりすよば、その残リ
が来年度にくるわけでございすやうで、そういうもつう
決定をしますよば、一定ある程度、額、引き下げと
いうことは可能でございす。事務的な段階では
その程度、か申し上げられません。

ニ八番(望月照正君) どうもだいぶむづかしい問題で特別委
員会の方にもういつてん詳しく話したいと思ひますか。
今やうに多少でも可能なもつが、あれば何とかなる課
長さんや、ゆるやうな方法で多少でも税率、引き下げ
をやり、おいてくれれば、市民に対するサービスではない
だらうかと思う。もう一つ言えることは、自治省の通達
がきて、好ましいことではないというならば、これからは
一般会計の繰り入れは絶対なしでやるんだというふうな

考え方であらうるわけですね。そういうことですか。

市長（本間譲君）国保の経営は市町村どこでもカンで
すわ。私も市長として非常にうまいわけですよ。

国保の赤字は一般会計から繰り入れですか。或いは保
険料の値上げ、どちらに——なければいけないわけだ
すわ。厚生省の方ではなかなか思いうまうに助成し
てくれないですね。今政府の方でいろいろ研究——して
いるですね。もつともなかなか成案が生まれませんでうま
くいかないんですね。私も市長としては市民に対して
工合が悪いですよ。値上げするということは。

千葉とか市原では千葉あたりでは一億円繰り
入れていますか。一般会計からやっております。市原でも
三千万位各地でそうやっております。——かーながら、熊山市
におきま——ては、今、そういうことにはいかなないです。

いろいろおっしゃるまでもなく上げたくないんです。
 ーかー。現在の館山市の財政ではやはり繰り出
 ーということが本年はとうてい困難です。ですから
 う。六月に補助金やなんかきて、そんで一応
 数字ができます。余裕ができればそれをにらみ合
 わせまして、少いでも二〇％にでも下げるようにいた
 ーない。そういうふうに考えておるわけです。どうも
 頭痛の種です。ーかー。被保険者は七〇％のあ
 ですから三〇％払えばいいわけです。非常に健康
 管理の上からいい制度です。

ーかー。経費する市町村側になればなかなか容易でない
 二三％上るといふことは全く市民に対して申しわけない
 と考えておりますけれども、本年はもう打段階では
 るを得ませんから、それで御了承いただきたいと思います。

ニハ番(望月照正君)課長さん私は市長さんがおっしゃることは
うなことを率直にいつていただきなかつた。だから一般会
計の繰り入れに対する交渉の過程がどうだったんです
かということを聞いた。それが、前任者の一般会計から
の繰り入れがこうまーいとか、好ましくないとか、そういう
ことをいうから、おまーくなってくる。本年は一般会計の
繰り入れがこうなんだから、こういう数字だとおっしゃって
いただければ最初から了解点に達しているわけです。
その点よろしく願います。

それ以外もう一点お聞きしたいんですが、保険税の頭打
ち先ほど五万圓ということをおっしゃいました。それが何と
か、苦肉の策で税率を引き下げということを考えて
質問するわけですが、これが数年前に保険税になった
んですが、保険料といた場合、頭打ちがなかったと思

うんですが、保険料とした場合にはどう位う保険税金
といひますか。それかアップになりますか、それを聞きた
いと思ひます。

保健衛生課長(網島憲之治君) 課税限度額を越える
額が一応三百二十万程度ではないだらうかというように推
定をいたしてあります。四十三年度です。これは、
もちろん本算定するときにならなければ決定した額
はわかりませんけれども一応今までの経過からおし
て、その程度あるであらうということでございます。

ニ八番(望月照正君) そうすると今までの館山市う一般
的な考え方として保険税を保険料にした場合の
徴収率ですか。それを勘案した場合にはどんなも
のですか。三百二十万というのは保険料の方が徴収
率が下りますから現行の保険税でいた方が得か。

保険料で徴収率をアップする方が得か、もづかしいと思
いますか。その点聞かしていただきたいと思います。

保健衛生課長(岡島憲治君) 保険料と保険税(かた)徴
収の問題を含んでゐるわけですが、私も保
険料から保険税になお(ま)うが、やはり徴収率
或いは法的な強化の問題で保険料から保険税に
変わったと思います。従(したが)って現在五万円の頭打ち
という(は)私ども全国(の)事務者会議でも、これは三十七
年(の)にきまつた額から動いておりません。もう十何年
かたつております。これを是正する(ように)呼ぶわけにな
ります。が国が減税(の)方向に向かつてゐる(のに)これを
上げる(のは)まずい(という)ことで現在と比べておかいて
います(けれども)保険料と保険税(という)金体的な観
念から申し上げますと、三百二十万(円)に保険料とす

限度額なしにというわけには参らないだろうと思ひますか
おそらく一定の線というものはひかなければならぬだ
ろうと思ひます。現在、税階では保険税の方
がよろいからう。三というふうに思ひます。

・二八番(望月照正君)了解。――

・一九番(島野茂樹郎君)大体前議員の質問で私の
聞きなかつた点も聞かれています。二三お伺い
しておきたいと思ひます。

まず、標準課税額というものが――方ですが、確か
法の上では療養給付費の見込み額ですか。それ
から一部負担金の総額を引いて、そうして七五%を
掛けるんだ。こういう表現になつてゐるようですが、実
際問題として、こゝ予算書で見た場合に、どい
と、七五%になりますか。そういうところから

教えていたいただきたいと思っています。

保健衛生課長(綱島憲治君)第三表の保険者負担額、療養給付に費要する費用が二億二千百二十万九千七百七十七月という数字になっております。療養費の五百七十七万四千八百三十七月、二の合計額が百分の七十五という事になります。

一丸番(島野茂樹郎君)わかりました。実は今年度から大五%に上るであろうということが言われております。旬報に出ております。それから、さき通れば、そういうことになろうかと思いますが、実は大五%に上ったと仮定して計算をいたしても、非常に大きな額になります。一億四千万位う額になるわけですから、どうも、大五%という数字をもちて計算をしても、やはり課税標準が非常に大きい。一てみると、二の算定資料に

出ているこの計算の方法がもっとも徴収すべき税額として算定は一番低いところにおさえらる。

三という結論に実はなっております。そこでこの税金ですけれども今年度より四十三年度より均等割、或いは平等割、一人頭、或いは一世帯当り、幾らになるか計算は出ておりましたか。教えていたいただきたいと思っております。

保健衛生課長(綱島憲治君) 被保険者一人当り千六百六十五円。一世帯当り二千三百五十四円という数字に相当するわけでございます。

二九番(島野茂樹郎君) そうしますと要するに一番最低の所得の人でも所得割、或いは資産割を納めないという一番最低の人でも一人当り千六百六十五円、或いは一世帯当り二千三百五十四円という

負担はするかどうかということになりますね。

保健衛生課長(綱島憲治君)　そのような計算になります。けれども所得の条に規定がございますように、所得十万まで一人については一号該当。所得十万を越えるものについては被保険者一人当り三万円に四万円、所得までは前年より均等割。平等割り十分六十分が減額される規定もございます。(二九番高野茂樹郎君)　それは承知をしておりますけれども要するに四月・一世帯二人でも五、六月間ということになるわけなんです。二三％増大です。かゝることは資料をいかに検討いたしても国民健康保険というたてまえからいけば、二三％も上げざるを得ないという結果にならなくてはなりません。そこで望月議員も言いましたけれども

一體どういたういか。何とかして負担を軽減を—たい
 という立場からいろいろ悩むわけなんですけれども
 一つは先ほど事務費の負担金、計算方法で一人
 頭三百四十円、被保険者数を掛けたものがという
 ことになっておりますが、国はそういうふうに算定する
 けれども、実際にはそういう算定ではないのだと
 いうお話もありました。三百四十円の二万八千五百十八
 人ということになると九百六十九万六千円、その差が三
 億六千六百万円、数字とは九千五百四十万四千円ばかり
 違ふ。約百万ばかり多くなる。ではないかというこ
 とも、実は計算して見たんですけれども、それと関
 題は非常に事務費に持ち出しがやはりあるわけであ
 り、それ位は一般会計から見るというふうな考え方に
 立てないか、どうかという事なんです。それと今年度

かう葬祭費或いは助産費が千円ずつ上つております
その上げた分についても、これは国できめてゐるものよりも
その分だけ、鎌倉市としては、給料^{内務}を多くしてあるわけです
から、これも一般会計あたりで見るとあるというふうな考え方
もできるのではないかと。そういうふうなことも考えなければ
ですが、それともう一つ、給与明細書によりますと、一般
職員十四名、それから保健施設費というのは、おそらく
保健婦長と思ひますけれども、合計十七名、二十九十四名
の内訳ですけれども、たとえば、保険税の徴収、そう
いうふうなものを携わつてゐる人、三十九人は、二十九十四名
の中に入つてゐるかどうか、できた十四名の仕事の内訳
的な配分ですわ、そういうものを教えていただくには
よろしいかと思ひます。

焦点がぼけたんですが、私に疑問としてゐるようなと

こうをつかんでお答え願いたいと思います。

保健衛生課長（綱島憲治君）私どもも保険税を上ることに努力しておるわけでも、はさごいません。實際問題といたしまして私どももなるべくならば、できるだけ下げて徴収の方も御苦勞かけるわけでございますので、さういうふうにしたいと思ひます。

いろいろ今、島野議員さんからおつたまうな方法は、これは實際問題といたしまして、現在私どもが考へておるものは七月に本算定ということと、そうときまで賦課額その他は決定を見ないわけでございます。いすいでも、その間、期間があるということとでございます。人件費についても比較的ばかり課にいます。高給者が私ともう職員になつております。これは人事課長の方にも申し入れます。

あまり高齢者でない人を私の方で支弁職員にしてい
こうということも申し入れてございます。それらを私どもの方
で技術的に可能なものについては全部終らしてい
たいまして、市長が先ほど申し上げましたようにできる
だけこれを減額する方向に処置したいと思ひ
ます。

二九番(島野茂樹郎君)私々希望といたしましては二三
%というのは非常に大きな値上げです。少なくとも
一〇%程度におさえることはできないだろうか。こういう
ふうに考えるんです。

一〇%の程度におさえたとは定いたりますと大体一千
万円位の計算の上では不足が出てくるはずで
す。一かーそれもさつき申し上げましたようにた
とえば事務費ももうちょっとくるような気もする。調整交付金

に於いても翌月期議員の質問もあつたんですが、
 二ヵ月も期待できそうに。必らずしも一千万円というこゝで
 なくて、操作のしうにまづけたとて一般会計から持ち
 出すにしても六百万或いは七百万程度でおさえること
 ができるのではないかと。本當に私の試算ですけ
 れども、そういう気もいたします。これはあとで予算
 特別委員会等において十分検討していただくというこ
 とにいたわけてすけれどもまあ先ほども市長から
 御答弁もありましたし、ただいま課長が前向きと
 いいますか、なるべく税を上げないという立場から再
 検討。七月までが間のいろいろの事務の経過を経て
 そういふ方向でせむとも御検討をお願いしたいと
 いうふうに考えるわけです。

それからこれは予算とは直接或いは関係ないかもしれ

ませんが問題は加入者が医者にどういうふうにかかって
自分たちがいかによいのかかるほど保険税にはおかせよう
くると言う今システムですからやはり病気にかかった
場合の保険の使用の仕方といふことです。むだな使用
をしない。そういうふうな加入者に対するPRとい
うまじょうか。いさうずな使いの方といったら語弊があ
るかもしれないけれども結局へたな使い方をすよは。
それと直接保険税の値上げと一口おかせようとする。
三という考え方をやはり徹底をしよう。三いうこと
も一つ手段として大事ではないかと考えます。
二はいつもそういう形で御努力はしていると思いま
すけれども、そんなに医療費が上り、保険税が年々上
つてくるといふ状態の中で、特にそれが必要ではな
いかと考えます。そこで、一つ御努力いたいただき

い。こんなふうに要望いたしまして、質問を終りた
と思います。

議長（吉田勇治郎君）まだ御質疑もあろうかと思ひ
ますが、一応議案第五号、国保会計予算案の
質疑もこゝで打ち切りまして次に進みたいと思
います。が、こゝに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よつて議
案第五号の質疑を終ります。

日程についておはかりいたします。

議案第六号乃至議案第十号の各会計予算案
は、こゝを一括して質疑を行ないたいと思ひます。
こゝに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よつて二つあり
議案第六号乃至第十号各会計予算案は一括して
質疑を行ないます。

暫時休憩いたします。

午後三時

休憩

午後三時 三十七分再開

議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開
きます。

二番(関武夫君)南部簡易水道事業について
お尋ねいたします。

二十六ページ一般会計から繰り入る小金が二千八
百五十万あるわけなんです。年度末に至つてこ

をどういうふう処理なさるお考えですか。それを承かりたいと思います。

衛生施設課長（吉田耕一君）繰り入れ金、関係でございすが一般会計から本会計に二千八百三十万をお願ひしようとするわけでございますがこれを年度末ということでご覧いませんで一応工期内に支出していただくというふうな考え方で四十二年度乃至四十三年度ニカ年継続事業でございまして四十三年度におきましてこの額をお願ひいたさないというふうな提案した次第でございます。

ニ一番（関武大君）一般会計から繰り入れとして予算に計上して一般会計の繰り出しの方に数字ののつてないことが過去ニカ年国保にあつたんですが、国保では年度末まで一般会計から繰り入れをせずに国庫

お尋ねしたいと思います。

衛生施設課長（吉田耕一君）お答え申し上げます。

この積み立て金につきましては、四十二年から実施をいたしておるわけでございます。この近代化基金といたしまして、目的と申しますか、計画と申しますか、現在々と場設備というふうな本屋にございまして、上屋関係が老朽化をきておるといふ関係合わせまして、その他細かい防疫と室というふうな面も今後大がかりの修理や経費を必要とするといふことから、年々積み立てをいたします。なお、二と合わせまして、大きなもうといたしましては、浄化施設が全然本格的な町もございまして、そうしたもう、指摘もございまして、今後、三、四と積み立てと相まうて行なうて参りたいというふうに考えております。

一八番(安西益男君)この点につきましてある十二月の定例会におきまして御質問申し上げたわけでございしますが、そう折にまだ二三年のうちには五成はもうまといいう市長からうお話があつたんですが、この程度で積み立て金ですと、なかなかいふ人には来年乃至は再来年という段階になっておりますが、非常に積み立て願がけないうではないかということを感ずるわけですが、それと畜畜に對してと畜場法或いはと畜法とかといった法規というものはどうなっておりますか。ちつとお伺いたします。

衛生施設課長(吉田耕一君)この施設かと畜場法う設置う規定はどうかという点だと思ひますか、完全に法の全部に該当するおるといふことではございせん、一から七から大体標準にさうつかえたい範囲におい

て認めていただいておるといふのが現状でございます。
なお、あう程度に施設をもちますにはやはり、完全な
汚水の浄化槽というふうなもの等も完備しなくては
いけない。ただ、そう他につきまゝでは大体認め
得らるる範囲において、現在選定してあるわけでござ
います。が、今先ほど申し上げたような点等をこゝ
に基金によりまして、これをもちといたしまして、起
債或いは場合によりましては、一般の賦課を多少
でも不足額を補つていただいて、そうして、基金に努
めて参りたい。このように考えるわけでございます。

二八番（安全益男君）十二月のときにもお話申し上げたわ
けであります。が、環境衛生上、まことに心配な点か
あるという点も見られます。また、付近の住民の
批判の声もあります。努めて来年度、再来年を

目途として五派なと畜場を建設に当つていただきます
たい。このやうなことをお願いして質問を終わります
・二五番(日村源治郎君)二〇一ページ 工事請負費七百
百三十二万 古く井工事 宮城水道 滅菌室工事
この工事は、どうしてもやうなく進まないんですか。それと
同時に滅菌室の今までの状況を一つお願いしたいと
思います。

衛生施設課長(吉田耕一君)二〇一ページの十五節 工事
請負費七百三十二万円の関係でございますが、この
工事を御質問にお答えして極端に申し上げます
とやうなことはない時点にあるということでございます
います。町ももつと早くやらなければいけないわけ
なんです。実際、過去、古く井、状態、から見ま
して、安心して古く井ができないという地域でございま

す。その関係から種々専門家の調査等も行
 なったわけでごさいます。最低の目的量程度は
 取水できそうかどうかというふうな一応の御指導をいた
 だいたわけでごさいます。その観点からいたしまして
 て西岬地域に二つの井戸を掘りまして水源の確保
 をはかして参りたい。このように考えるわけでごさいます。
 なお、宮城滅菌室関係でござりますがこれは
 戦争中当時の滅菌室でございます。で、老朽
 化しております。これを今回改築いたしまして
 清潔な滅菌室にいたしたい。このように考えて
 いる金額をお願ひしようと思つてございます。

・二五番(田村源治郎君)前にも宮城水道は、水は十分
 だといふたが夏になるといつも水がなくなつた。
 去年も水がない。もっと慎重を期して水を出さうな

場所をあせうずいなるように要望して終ります。

三番（小沢忠太郎君）議事進行について申し上げたいと思
います。

ただいま議題となっております議案第四号乃至議
案第十号 昭和四十三年度館山市一般会計並びに
特別会計予算に対する質疑は、なおたくさん御発
言もあるうかと存じますが、こゝ位で質疑を打ち切
り、さらに詳細に内容を審議する必要上、こゝに
予算審査特別委員会を設置して、こゝを一括付
託をして審査をお願いいただきたいと存じます。
なお、委員の数は十名程度でよろしいかと存じます。
こゝ委員の選任の方法については、議長が指名により
選任していただくかと存じます。よつて、こゝに議会
運営協議会を代表して動議を提出いたします。

議長(吉田勇治郎君) ただいま二番議員君の動議
は議案第四号乃至第十号の予算案の質疑
は二、三で終結と。ただちに予算審査特別委
員会を設置し二、三に指付託する。その委員の数
は十名とし選任の方法は議長が指名によると
いうことであります。

おはかりいたします。二、三動議に御異議ござい
ませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よろ決
まします。

三、四、予算審査特別委員会の委員を指名いた
します。

三番議員 嶋田石蔵君 六番議員 磯辺博君

七番議員 白熊盛太郎君 九番議員 三幣勇君
三番議員 小柴孝君 一五番議員 石井正君
一六番議員 五十嵐昇君 二〇番議員 中村省吾君
二四番議員 田中祿郎君 二六番議員 望月照正君
以上十名予算審査特別委員会委員に指名いたします。
さす。こゝに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。

さす。決定いたしました。

量わておはかりいたします。

ただいま決定されました予算審査特別委員会に
議案第肆四号乃至第拾号を一括して付託し
次会より本会議まで審査を了す。そう経過並びに
結果について報告を求めよう。いたしなさいと思います。

二に御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。さう
決定いたしました。

ただいま選任されました特別委員の方は本日、会議
散会後、議場において正副議長委員長の互選を
行ないます。お残り下さるようお願い申上
げます。

本日、会議はこゝにて散会といたします。
次会はさたる二月二十八日午前十時開会といた
します。

その議事は議案第四号乃至第十号昭和四十三年
度予算案にかゝる予算審査特別委員会委
員長の審査の経過並びに結果の報告の討論

採決 並に追加議案の審査といたします。

午後三時五十分 散会

今日の会議に付いた事件

一 議事日程に同じ

出席議員

吉田 勇治郎

鳩田 石蔵

伊賀 多朗

藤田 益治

磯 辺 博

白熊 盛太郎

黒 川 正

三 幣 勇

西村 真次

菊井 敏博

小 策 孝

山 田 教 字

遠 山 ヨネ子

石 井 正

五十嵐

昇

江田徳太郎

安西益男

島野茂樹郎

中村省吾

関武夫

小澤恵太郎

飯田義男

田中祿郎

田村源治郎

秋山大三郎

安次徳順

望月照正

山口康

欠席議員

石井輝久

鈴木市蔵

出席説明者

一 第一日目 同ト

出席事務局取員

一 第一日目 同ト

